

令和2年度の全日制学校評価（結果）

ア 自己評価結果等

重点目標	<p>ア 教育活動全体を通じて、他者と関わる力を身につけさせ、生徒の主体性、自尊感情、他者と結び合う心を育てる。</p> <p>イ 教務部主管の授業見学や授業アンケートの充実に加え、教科会による主体的な授業改善の取組など、「授業 研究」の文化を醸成する。</p> <p>ウ 教育課程の変更にとまなう諸問題を予見し、校内組織の調整など移行のための準備を進める。</p> <p>エ 「高校生のための学びの基礎診断」を、生徒の学習意欲の喚起に活用するとともに、学習指導の改善に役立てる。」</p> <p>オ 教育活動の見直しや業務の精選に加え、スケジュールや書類の管理スキルなどの「個の力」を高め合い、教職員の多忙化の解消に努める。</p>		
項目（担当）	重点的目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>学習指導 （教務部） （各教科会） （各学年会）</p>	<p>授業に臨む態度の育成 （学校評価アンケートにおける「先生方は、家庭で学習するように十分指導していると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）</p> <p>学習意欲の向上</p> <p>基礎学力の定着</p> <p>授業力の向上 （学校評価アンケートにおける「先生方はわかりやすい授業を心掛け、工夫をしていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備の定着を図る。 ・チャイム後、すぐに授業を開始できるようにする。 ・授業ガイダンスを通して、学習の目的、授業の受け方、予習・復習の仕方について、しっかり説明する。 ・習熟度別授業などの生徒の学力に応じた授業展開を工夫し、授業内容の理解度を高める。 ・計画的な確認テストを実施し、生徒の理解度を把握する。 ・計画的な課題学習を通して、家庭学習の習慣化を図り、基礎学力を定着させる。 ・授業参観週間の活用、教科会における授業研究を通して、教師の授業力向上を図る。 ・牧高パワーアップアンケートの結果を分析し、授業改善に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標の「授業臨む態度の育成」及び「授業力向上」のアンケート結果は、いずれも目標の70%を超えることができた。今後も気を抜かずに取り組んでいきたい。 ・始業のチャイム前に活動場所に到着する教員が増え、それに比例して生徒は始業のチャイム前に授業準備を済ませ、着席できるようになった。しかし、一部、始業のチャイムに遅れる生徒がいたり、授業中に教材を取りに廊下のロッカーへ行く場面がみられるので、改善しなければならない。授業ガイダンスは、概ねよく活用され、生徒は、目的意識を持ち、予習・復習をしっかり行いながら授業を受けている様子である。しかし、学習に対して目標を持っていない生徒や予習・復習が手につかない生徒もいるので、個別の支援が必要ではないかと考えている。 ・習熟度別授業の実施は、生徒の学力に応じた授業が展開できるので、学習内容の理解度は高まったと考えている。今後もできる限り実施していきたい。 ・基礎学力定着のための確認テストや課題学習はしっかりと取り組ませることができた。今後は、より多くの教科での確認テストの実施や、適切な課題の内容・分量を模索していきたい。 ・授業参観週間は、しっかりと活用され非常に有意義であったと考えている。今後も継続し、さらなる研鑽に努めたい。 ・今年度より牧高パワーアップアンケートを実施した。授業の実態が可視化され、非常に有意義なアンケートとなった。今後は、アンケート内容や答えさせ方を改善し、さらに意義あるものとしたい。
<p>生徒指導 （生徒指導部） （各学年会）</p>	<p>基本的生活習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・欠席の減少を目指す。安易な欠席、遅刻をさせない。 ・遅刻確認票の運用と指導の徹底。 ・遅刻防止週間の設定実 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻及び欠席数は、昨年度より減少した。 ・遅刻確認票の運用について、今年度より変更したが、円滑な運用がなされ、適切な遅刻指導につながった。

	<p>情報モラルを高める指導の充実 (学校評価アンケートにおける「先生方は生徒のインターネット上のルールやマナーについて指導をしていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)</p> <p>交通事故防止と交通(社会的)マナーの指導</p>	<p>施。(学年との連携) ・授業規律の確保や怠学の防止。(適応指導)</p> <p>・携帯、スマートフォン の校内における使用規定を遵守させる。</p> <p>・情報モラルに関する講話やスマホPC使用ガイドライン7(啓発資料)を活用した指導を行う。</p> <p>・登校時の自転車による事故防止教育 ・迷惑行為等のマナー教育 ・「学警連携」地域、警察との連携</p>	<p>・遅刻防止週間は6月、10月、1月に実施し、効果があった。来年度は定例化していく ・授業開始前の着席と教員の入室を更に定着したい。</p> <p>・校内の使用規定において、周知されており、使用マナーについても適切に指導ができています。BYODについても現規定において対応できている。 ・ガイドラインの内容は適切である。ほとんどの保護者の方はガイドラインを認識されている。生徒の意識向上が課題である。</p> <p>・交通事故件数は減少傾向。交通安全講話は、各学年事の独自作成資料で講話。効果があったといえる ・交通マナーや事故防止の啓発資料も適宜発信した。 ・外部連携活動はコロナ対応として中止した。</p>
<p>進路指導 (進路指導部) (各教科会) (各学年会)</p>	<p>3年間を見通した進路指導のさらなる推進 (学校評価アンケートにおける「先生方は必要な進路情報を提供していると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)</p>	<p>・生徒の進路希望状況・推移を十分に把握し、行事等の企画・運営に生かす。 ・教科・学年との情報を共有し、継続性のある指導を展開する。今年度から導入した「学びの基礎診断」を有効活用する。 ・高大接続改革、新たな入試制度に注意を払い情報収集・企画等を行う。また今年度から始まる「大学入学共通テスト」に向けて十分な準備をする。</p>	<p>・生徒の進路希望状況を各学期当初に把握し諸施策に生かした。 ・変化する高大接続改革、新制度入試に向けての情報を収集し、適切に対処した。 ・「進路のしおり」や、各種ガイドラインによって、適時に的確な情報を生徒、保護者に提示してきた。 ・コロナの影響を大きく受けたが、全体としては予定通り指導を行うことができた。 ・次年度以降も、状況に応じて適切な指導を継続していきたい。</p>
	<p>生徒の進路希望実現に向けてのさらなるサポートの実施</p>	<p>・教科・学年に成績等のデータ・情報を提示し、進路指導・学習指導をサポートする。担任が個々の状況を把握する手段として、「ハイスクールオンライン」、「バンザイシステム」の適時の活用を促す。</p> <p>・入学試験や就職活動・試験に向けたきめの細かい指導を行う。面接や小論文についてもさらに効果的な指導ができるシステムを整える。</p>	<p>・模擬試験や入学試験の各種データを教員、生徒、保護者に分かりやすく提供した。 ・進路検討委員会、推薦委員会、担任会等も活用して、進学・就職指導の情報共有や方針の確認を行ってきた。 ・コロナの影響を受けたが、補習や模擬試験を適切に運営してきた。 ・学年・教科との連携をさらに深めて、より適切な進路指導を進めていきたい。</p>
<p>学校安全・保健 (生徒指導部) (保健厚生部) (総務部) (各教科)</p>	<p>健康や安全に対する意識の高揚と体力の向上を図る</p> <p>生活習慣改善のための啓発活動を行う</p>	<p>・あらゆる機会を利用して、健康や安全について考えさせ、生命の大切さや安全のための実践的な能力を育成する。 ・保健だよりなどを通して</p>	<p>・重点目標の「健康や安全に対する意識の高揚と体力の向上を図る」については、感染症予防のための手洗いやマスクの着用などをあらゆる機会を利用して啓発した。 ・学校評価アンケートにおける生徒の健康状態の把握や相談活動の項</p>

	(学校評価アンケートにおける「先生方は生徒の健康状態を把握するとともに、十分な相談活動を行っていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)	て健康に関する知識の向上を図る。	目は、生徒・保護者ともに「思う」「少し思う」が合わせて80%を越えた。 ・安心して学校生活を送れるような環境整備が課題である。
保護者連携 地域連携 (総務部)	家庭や地域社会との連携を図る (学校評価アンケートにおける「先生方はPTA行事に積極的に保護者に参加してもらえると内容が工夫していると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)	・学校の教育方針に対する地域や保護者の理解と協力を求める。 ・学校のHPの更新を随時行い、情報発信に努める。	・保護者に対して、きずなネットを通じて情報発信に努めたが、保護者からの評価はやや厳しいものであった。令和2年度学校評価アンケート、質問12、「学校はPTA行事に積極的に保護者に参加してもらえると内容が工夫していると思いますか。」に対する肯定的な回答が66%に止まった。令和3年度は肯定的回答が令和2年度より改善できるように方策を高める。
学校行事 (生徒会)	学校祭の充実を図る (学校評価アンケートにおける「先生方は生徒が牧高祭に意欲的に取り組めるよう努力していると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)	・各種委員会等を活用して、生徒の要望・意見を吸い上げることに努める。	・本年度より熱中症対策から体育祭をパークアリーナ小牧で実施することとし、またコロナ禍から文化祭は2日に分けての分散開催とした。どちらも手探りの状態であったが重点的目標に掲げた数値は上回る事ができた。来年度は本年度の反省からさらに生徒の満足度を向上させたい。
図書館利用 (図書部)	図書館利用の充実を図る (学校評価アンケートにおける「先生方は魅力ある図書室作りに努めるとともに、十分な広報活動を行っていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)	・図書館行事や新着図書一覧の作成などPR活動のより一層の充実を図る。	・「読書週間」や「読書会」などの例年の行事に加えて、「本のプレゼンテーション」を新たに実施した。新着図書 一覧の作成などPR活動のより一層の充実を図るだけでなく、HP上でも紹介していく予定である。
いじめ・不登校対策委員会	いじめの未然防止に係る取り組みの充実 いじめの早期発見、適切な事案対処	・朝礼や学年集会、ホームルーム活動において、いじめ防止をテーマとした活動を取り組み、生徒がいじめ問題を主体的に考える機会を設ける。 ・「学校生活に関するアンケート」(年2回実施)の実施方法や、その後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見、迅速な対応に繋げる。	・風紀委員会の活動として、いじめ未然防止をテーマにポスターづくりを実施。各学年廊下に掲示するとともに発信した。 ・人権週間において、有志生徒(風紀委員・部活動・生徒会)あいさつ運動を行い、いじめ未然防止を図った。 ・アンケート調査から迅速かつ、きめ細やかな対応により、状況把握と対応ができています。 ・不登校の未然防止について、教員のその意識は年々向上している。2,3年生に進級後の新たな不登校生徒はほとんどない。 ・入学年時において学校不適応生徒は、年々増加しているが、対応により改善する生徒も多い。更なる体制が課題。(教員研修)
教職員の健康管理	勤務時間の適正管理及び長時間労働による健康障害防止	・毎月の在校時間状況記録の結果の活用 ・ストレスチェックの結果の有効的な活用	・1月時点で80時間超えの職員は、のべ20名(昨年度同時期31名)であった。コロナの影響もあり、模試等の校内実施による影響が出た。

総合評価	<p>学校全体としては、落ち着いた学習環境が充実してきていると考えられる。しかし、学校に対する不適応やさまざまな問題を抱える生徒については、減少傾向は見られない。遅刻・欠席の増加や、相談委員会での報告などの情報を基に先生方の早期対応により改善する生徒も多い。更なる教育相談体制の見直しや、地道な生徒面談を行うことを継続し、早期発見・早期対応のできる体制づくりが必要がある。</p> <p>授業態度、課題の提出状況は向上しているが、基礎学力の定着がまだ不十分であり、今後も日常的な粘り強い指導を継続するとともに、「牧高パワーアップアンケート」の結果を活用し、興味・関心が湧く授業改善や主体的・対話的な深い学びができるような授業改善に各教科取り組んでいく。また、平成4年度から始まる学習指導要領の実施に向けて、各教科の指導力を、個の力としてだけでなく、学校の教科力として高められるよう、教科内での研修の充実を図っていく。更に、学校の様々な教育活動が、進路意識を高め、生涯学習をし続ける意欲を喚起し、生徒の成長を促す方策を更に研究しながら、実践をすすめていく。</p>
------	---

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業研究」の文化の醸成（授業改善） ・新学習指導要領への対応（教育課程の変更に伴う諸問題の洗い出し） ・高大接続への対応（「高校生のための学びの基礎診断」の有効活用） ・教職員の健康管理
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、新型コロナの影響があり、6月からの学校再開であった。様々な場面で、今まで行ってこなかった新たな様式での取り組みが必要となったが、学校長をはじめ各分掌・学年と連携を取り教育活動が行われたと考える。 ・学校再開が6月になったことで、基本的な生活習慣の確立が心配されたが、生徒指導部・学年を中心に適切に実施された。他の分掌や学年との連携もよくなっており、さらにきめ細かな指導を進めていきたい。遅刻防止の取り組みとして実施した風紀員会、生徒会での「あいさつ遅刻防止運動」は一定の効果があった。 ・「牧高パワーアップアンケート」を2回実施し、職員会議等で分析等を行い、各自・各教科の授業を見つめ直す機会を持った。 ・29年度よりPTA役員の方に対して、学校評価アンケートを実施し、様々な意見・要望を聞くことができて良かった。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなシステムを構築し、向上を目指し、高校生としての自覚を促し、規則を厳守する姿勢を養う指導を続けて行う。 ・牧高パワーアップアンケートの結果を今後の指導改善や授業改善に向けて生かすよう、より一層の分析と実践の意識を高めていく。 ・今後も公開授業の実施や授業参観週間の設置を継続し、授業力の向上を図り、生徒のより高い進路目標の実現に向けて、意識改革や学力の向上に1年時より計画的に進めていく。 ・学校評価アンケートを、全PTA対して実施をし、改善点の確認をしていく。
その他 (学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での、体育祭の実施により、保護者の観戦を遠慮していただいたことによる、情報提供が少なかったことへの対策要望があった。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・構成・・・学校評議員4名、全日制3年PTA役員4名、校長、全定教頭、事務長 ・評価時期・・・令和3年3月1日

令和2年度の定時制学校評価（結果）

ア 自己評価結果等

重点目標	<p>(7) 教育活動全体を通じて、他者と関わる力を身につけさせ、生徒の主体性、自尊感情、他者と結び合う心を育てる。</p> <p>(4) すぐれた指導事例を学び合うなど「授業研究」の文化を醸成し、授業改善を推進する。</p> <p>(ウ) 新教育課程の変更にともなう諸問題を予見し、校内組織の調整など移行のための準備を進める</p> <p>(エ) 生徒を取り巻く社会の変化に対応した、就労支援・進学支援のための4年間の進路指導計画</p>
------	--

	を作成する。 (オ) 教育活動の見直しや業務の精選に加え、スケジュールや書類の管理スキルなどの「個の力」を高め合い教職員の多忙化の解消に努める。		
項目 (担当)	具体的目標	具体的方策	評価結果と課題
学習指導 (教務部) (各教科)	多様な生徒への対応と授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 不登校の生徒への対応の充実 外国人生徒対応の一層の充実 基礎学力が不足した生徒への対応の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校カウンセラーや外部機関との情報交換の機会が増加した。 生徒の日本語の力がさまざまで、複数言語支援員の入り込みの授業をおこなった。 ○基礎学力の育成を新教育課程への対応を見据えて主体的 ・対話的な授業の中で身に付ける工夫を全教科で研究する必要がある。
	特別活動等による「在り方生き方教育」の展開	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究(学習)への対応など、具体的な指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会や学校行事など、機会をとらえてタイムリーな話題を扱うことができた。 ○メモから感想を記述させたが、そこから生徒の理解につなげる工夫が課題である。
生徒指導 (生徒指導部)	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者・早退者への指導の充実 欠席過多者への指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連絡を密にして遅刻は減った。 アルバイトや家事手伝いなどの理由で、欠席が増加する傾向がみられた。 ○家庭にも早期から高等学校の出席の重要性について十分理解してもらう必要がある。
	生徒情報の精選と共有化	<ul style="list-style-type: none"> 定期的情報交換会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報を学校全体で共有して解決の知恵を集め、必要なタイミングで行うことができた。
	交通安全指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全講話の実施 下校指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の登下校指導で自転車の点灯やマナーの声掛けが効果をあげた。 ○外部講師の講話の導入など工夫が必要。
進路指導 (進路指導部)	進路意識の向上及び進路学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演会 進路情報の提供 面接指導 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会で、最上級生だけでなく、2年3年生徒に進学情報を提供し進路選択の幅を広げた。 ○奨学金も含めた、学費の意識づけが必要急務。
保健指導 (保健厚生部)	健康の増進と食中毒の予防及び相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断の円滑な実施と治療勧告 学校カウンセラーの効率的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症対応について、家庭・職場との連絡を密にし生徒の健康への関心が高まった。 ○校医、カウンセラーなど外部講師による生徒向け講話、教員向けの情報提供機会を検討したい。
	環境教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 節電、省エネを通じた環境意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> 「地球といのちの環境教育」等を通じて、関心が高まった。 ○「保健」などの授業との連携を模索したい。
いじめ・不登校対策委員会	いじめに対する措置	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止講話の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 県方針に基づく組織的な対応を行う。 ○身近なメールなどの事例も組み込みたい。
教職員の健康管理	健康障害防止の取組	<ul style="list-style-type: none"> 勤務時間の適正な管理 	<ul style="list-style-type: none"> 長時間労働の実態を把握し対策検討する。 ○定時制では著しい過多者はおらず、引き続き業務役割分担の適性化を試みたい。

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	多様な生徒への対応について。
自己評価結果について	一人一人の生徒への個別対応に評価を得た。
今後の改善方策について	保護者、地域に向けた情報発信の機会を増やすなどの取組を考える。
その他 (学校関係者評価委員から出された主な意見要望)	現今の社会情勢をにらんだ就職指導の充実。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> 構成・・・学校評議員4名、全日制3年PTA役員4名、校長、全定教頭、事務長 評価時期・・・令和3年3月1日